

Title: in⇒out



鈴木 和博
適当人間。受け流さない。愛せ止める!
ちょっと表面になっで帰ってみたいです。

● 最近のエントリー

- はしゃぎすぎ注意 (2011.07.27)
- カップ麺オーバー (2011.07.25)
- 沿パン・ビーチサンダルで すが何か? (2011.07.25)
- あなたはなにをしんじますか (2011.07.24)

● アーカイブ

- 2011年09月
- 2011年08月
- 2011年07月
- 2011年06月
- 2011年05月
- 2011年04月
- 2011年03月

● 投稿カレンダー

● カテゴリー一覧

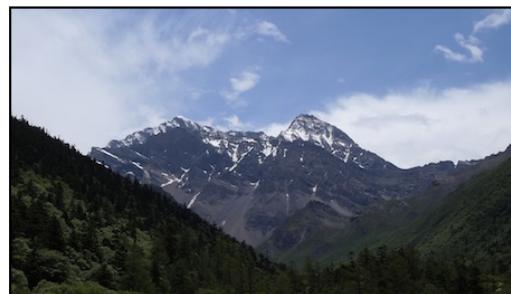
- インド
- カンボジア
- シンガポール
- タイ
- エバート
- フリー: 中国
- ベトナム
- マレーシア
- 中国
- 台湾
- 日本
- 韓国

● ブックマーク

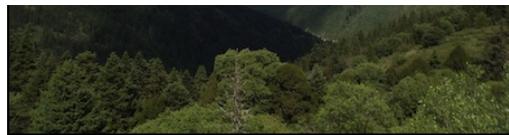
学校法人 日本写真芸術専門学校
NIPPON PHOTOGRAPHY INSTITUTE

RSS 2.0

in⇒out > 2011年07月 アーカイブ
11.07.27
はしゃぎすぎ注意

[Tweet](#)[Check](#)





黄龍

九寨溝から黄龍に行くには空港までの道を戻り、そこからさらに逆の道を行く事になります。

九寨溝からの距離140km。片道2.5~3時間かかります。

九寨溝・黄龍エリアには路線バスがないので、ツアー客以外はタクシーを使って行くしかありません。

1日チャーターする事になると思いますが、遠いし待ってもらうので高いです（700~800元）。

一人で行く人は覚悟して向かってください。

また、黄龍に向かうには4000mの峰を越えます（車に乗ってる間に通り過ぎますが）。

あっさり富士山よりも上の世界に行ったわけです。

道の途中には茶局もあり、高山病対策のドリンク？みたいなものも売っていました。

黄龍の入り口は標高3200m
一番上の五彩池は3553m

入り口の段階で九寨溝の最高到達地点よりも高いです。

黄龍は九寨溝と違って徒步での散策になります。

五彩池の近くまでいけるロープウェイもあるので、上りだけ済んで歩いて下る事もできます。

実際ほとんどの人はそうしています。

遊歩道は整備されていて売店やトイレもあります。

調子にのってるとホントに語くらくなります。

何カ所か無料の酸素吸入所があるのでつらくなったら利用する事をお勧めします。

時間さえあればロープウェイなしで往復する事は可能です。
ただ、天気が変わりやすいので雨具を持って行った方が良いです。

九寨溝も黄龍もケータイの電波が普通に入ります。
公衆電話もあります。

何も困る事はありません。

以上、観光情報ブログでした。

カテゴリ: [中国](#)

post by 鈴木 和博 | 日時: 2011.07.27 | [パーマリンク](#) | [コメント \(0\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

[in&out >](#) 2011年07月 アーカイブ

11.07.25

カッパ麺ず～るずる

[Tweet](#)

[Check](#)

九寨溝

四川省アバ・チベット族チャン族自治州

周囲を4000m級の山々に囲まれ、美しい風景を求めて人々が押し寄せる場所。

九寨溝の情報は調べてもあまり詳しく出てこないので私がかなり整備された観光地です。

チケット売り場の近くにはATMもあり、軽食やハンバーガーショップまであります。
ホテルも様々なクラスのものが多めあり、オンシーズンでない限りはどこかしらに泊まると思います。
スーパーもあり、食堂も豊富なので旅する上で困る事はまずないです。

7月は一番暖かいとされていますが
朝と夜、そして晝っている時は寒いので上着は必要です。



入り口付近には朝早くから人が押し寄せます。
中国人の特徴なのかわかりませんが、ツアー客の数がとんでも多いです。
チケットは入場料が200元（約2700円）時期によって値段は変わります。
バスのフリーバスが90元（約1100円）します。
なかなかのお値段です。
それをこの人数から取っていると思うと、1日でどれくらいのお金が動いているのかって
考えてしまいます。



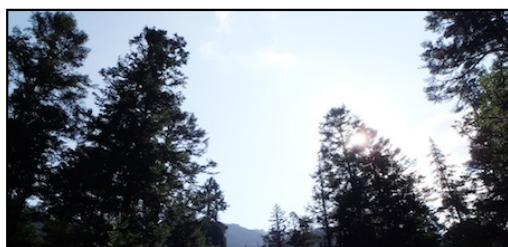
九寨溝は歩道が整備されているのでバスチケットを買わずに歩いてまわる事も可能ですが、体力的・時間的に限りなく不可能です。
入り口から一番奥までは30km。
さらに入り口は標高2000mですが一番奥の長海は3100mの高さです。上り道となります。
しかも九寨溝は途中でY字状に道が分かれるので全部を1日で見る為にはバスが必須です。

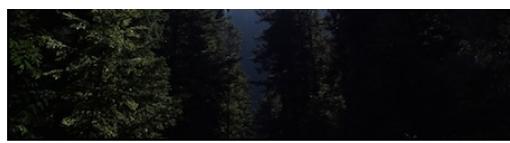
中国語がわからないとどこに向かうバスなのかわかりません。
バスにはガイドさんが1人いますが全部中国語での説明です。
基本的にツアー客も個人客と一緒にバスに乗るので道が無いととても寂しい思いをします。

バスは待っていればたくさん来るので困りませんがどこ行きなのか、どこに着いたのかの
判断が外国人には難しいです。

でも普通はまず入り口から一番奥（原始森林or長海）まで行って、歩きかバスで戻りながらの観光になると思うのでそこまで困らないと思います。
バスのチケットには地図が書いてあるので漢字が読める日本人なら雰囲気でここがどこなのかわかると思います。
フリーバスなら乗り降り自由です。どのバスにも乗れます。

僕でもなんとかなったのできっと、大丈夫です。
バス停の近くにはトイレや売店があるので、観光にも便利な作りとなっています。





日則溝景区の鳥奥部、原始森林

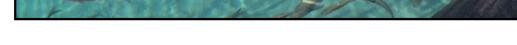


木温れ日がきれいな場所です



箭竹海（海拔2618m）





パンダ海（海拔 2584m）



看板には中国語・英語・日本語・韓国語
Bus Stopの訳が「する停」ってなんなんでしょうね。
看板だけ見ると外国人にも親切な場所だと思いますよね。
ところがどっこい。
基本的に中国語しか通じません。



パンダ海瀑布





五花海（海拔2471m）
九寨溝の代表的な見所の一つ。
おぞろしくらいに奇く過ぎ通っています。
怖いくらいにきれいってのはこの場所の為にある言葉なのではないでしょうか。



原始森林と長海の分岐点となる場所には觀光センターがあります。
大規模なレストランはここだけなのでみんな休憩していました。

シーズンという事もあり、レストランに入りきれないほどのお客さんです。
そんな人達は外でカップ麺をすります。中国的には方便面ってやつです。
觀光地料金ですがお腹が満たされたのでよしです。
高地で食べると何でもおいしい気がしてしまいますね！

九寨溝観光は朝から出かければ1日で終わります。でもとても疲れます。
ゆっくり見たい人は2日かけるといいと思います。入場料等は毎日かかってしまいます
が。



則查溝景区の最奥部、長海（海拔3100m）

九寨溝での最高地点となります。
標高が高いのではしゃぎすぎると頭がくらくらします。
2400mを超える場所では高山病の心配もしましょう。
簡単に来れてしまうので実感は湧きにくいですが、ここは間違いなく高地です。



五彩池（海拔 2995m）
ものすごく透明度が高く底までハッキリ見えます。
どうですか？五色に見えますか？



エリア内にはチベット族の集落が残されており（残した？）観光地となっています。
観光開発にこの手の話題は付き物です。良いか悪いかは僕にはわかりません。

ホテルや土産物屋、レストランなどで働いている人の顔つきもどことなく都市部の人とは違うように思いました。
つまりチベット族なのだと思います。
日焼けし顔が少し赤味を帯びていて涼々しい。
高地の民独特の顔つきです。

九寨溝の入り口では地図を売っている女の人がたくさん見ます。
九寨溝の至る所でチベット族の衣装を着て写真を撮るサービスを行っています。
観光地化してしまうと、そこで働く人はどうしても観光客より立場が下になってしまう気がします。
お客さんはいないと成り立たないシステムが出来上がってしまうから。
九寨溝は人気があるからいいのですが、もっと違う形でチベット族の誇りを見てみたいなーと思いました。

印度でも書きましたが、観光客はわがままで。
しかも中国という人口大国の観光地でさらに世界遺産ともなれば、きれいな環境を保つのは至難の業だと思います。

ですが、九寨溝の観光はとても快適にできます。
トイレはたくさんあるし遊歩道はあるし、売店もある。ゴミ箱も設置されています。

これだけの人が来るのです、悲しい事ですがそういう人がいるのも仕方ないのかもしれません。
その人には心の中で思いっきり呪いをかけておきましたけど。

でも、九寨溝は全体としてほとんどゴミが落ちていません。ほぼゼロと言っても良いくらいです。

それは数多くの清掃員がいるからです。歩いていると何人も目にします。
ポイ捨てを止める事は無理です。
あのきれいな光景を目撃当たりにしてそれでも捨ててしまう人には何を言っても無駄です。
それならゴミを拾う人を増やせばいい、というのもとても現実的な策だと思います。
もし景観維持の為になっているのだとしたら、僕たちが払う高い入場料も無駄ではないのかもしれません。

九寨溝がきれいであり誇けてくれる事を願うばかりです。

カテゴリ: [中国](#)
post by 鈴木 和博 | 日時: 2011.07.25 | [パーマリンク](#) | [コメント\(6\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

[in@out > 2011年07月 アーカイブ](#)

短パン・ビーチサンダルですが何か？

[Tweet](#)

[Check](#)

いよいよ10カ国目、中国です。
まずはみんなでラサを経由し成都へ入りました。

そして僕は成都から九寨溝へ。

フライトが6:35と早い時間のため、朝4:00にホテルを出るはめに。
いやーインドに引き続き朝早く起きてすいません、高野くん。
ものっすごい気持ち良さそうに寝ていたレセプションのおねえさんを起こしタクシーを呼んでもらいました。
すいませんねー迷惑な客で。

さすがにこの時間は道路もガラガラ。
空港までの道は他の車をほとんど見ませんでした。

そしてなぜかタクシーのおじさんにタバコを渡されました。
最初は「吸っていいか？」って聞いてるのかと思ったけどそうじゃなくて「お前も吸うか？」って意味でした。
タクシーには思いっきり禁煙マーク付いてたんですけどね。運転手自ら吸うとは謎です。



九寨溝は7~10月がオンシーズンです。
なのでこの時期は毎日数多くの飛行機が九寨溝へと飛び立ちます。
僕の乗る飛行機の5分前と5分後にも九寨溝行きのフライトがありました！
九寨・黄龍空港は標高が高く天候が安定しないためフライト時間の乱れが多い場所と聞いていました。
だから早い時間のフライトにしたのですが、運がいい事に時間通り飛んでくれました！
よかった～。

成都～九寨溝はわずか40分のフライトです。

そして無事に到着。

が、しかし

飛行機から降りたら・・・

・・・さむい

一気に冬が来たようでした

それもそのはずです
九寨・黄龍空港は3447mの高さにあるのです。
ほとんど富士山と変わりません。

その時の僕の服装は、長袖、短パン、ビーチサンダル・・・

あれまあ

ちなみに中国入国に使ったラサ空港は3570mだそうです。
いやー、すごいとこですね中国は。

寒すぎるので直攻でタクシー捕まえて飛び乗りました！





タクシーで1時間30分かかります。

街があるというよりは、ホテル・食堂・スーパーなどが集まっている感じです。
まさに九豪溝観光のために用意された場所です。

ホテルのあるエリアは標高2000m程度なので日差しがあると暑いです。

それでは今回はこの辺。
九豪溝の詳しい事は次のブログで書きます。

カテゴリー: [中国](#)

post by 鈴木 和博 | 日時: 2011.07.25 | [パーマリンク](#) | [コメント\(2\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

[in⇒out > 2011年07月 アーカイブ](#)

11.07.24

あなたはなにをしんじますか

[Tweet](#)

[Check](#)

バクタブルでは写真展の他にも
BJIのみなさんと写真教室をしたり
アニル君のガイドのもとナガルコットへ行ったり
BJIのみなさんと日本の歌を歌ったりと

貴重な経験をたくさんさせていただきました。
抱えきれないほどの思い出がいっぱいです。
別れが寂しいと思える人達に出会う事ができて僕は幸せです。

そして、バクタブルのBJIのようにカトマンズにも日本語学校があります。



アジサイ日本語学校（ajisai Japanese Language Institute）。
ハートマークがかわいいです。

BJIとは姉妹校のような関係みたいです。

渡すものがあったのでカトマンズ滞在中に訪問しました。



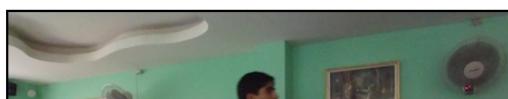
ここでは30人近い学生さんが日本語の勉強をしているそうです。
まだ勉強を始めて数週間の人、数ヶ月の人、様々な人がいますがみんなとても上手に日本語を話します。

この日はちょうど『Happy Teachers Day』という先生に感謝する日だったので授業ではなく歌を歌ったりしていました。

少し見学させてもらい、いくつかネパール語を教えてもらいました。

やはりネパール語は発音が難しいです。

ネパール語の母音は12音あるらしく日本人には聞き分けける事すら難しいです。





そしてその後みなさんとご飯に行く事に。



ごちそうさまでした！
次にくる時にはもっと日本の事に詳しくなっておこうと思います！！
みんなの癡しさに感謝です！！

話は変わりまして
ネパール最終日はボダナートとバシュバティナートへ行ってきました。

ボダナートはチベット仏教のストゥーパで有名な場所です。
チベット仏教を知らないでもボダナートはテレビ等で見た事がある人も多いのではないかでしょうか？
チベット仏教はマニ車、タルチョー、鳥糞などがよく知られています。
チベット仏教の最高権威はダライ・ラマです。
他の詳しい事は知りません。ごめんなさい。



ブッダの知恵の目
四方向すべてに書かれています。
なんて素敵なおめで。

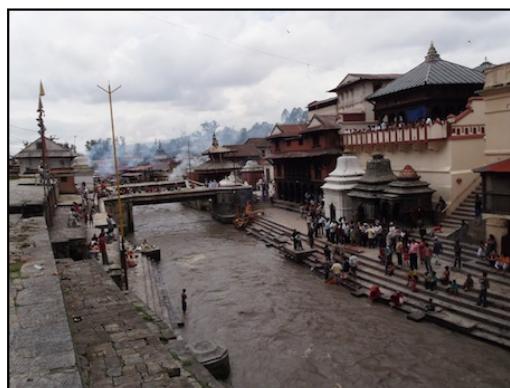




タルチヨー
祈福旗です。
色は全部で5色、順番も決まっています。
写真だとわかりにくいですが、青・白・赤・緑・黄色の順番になっています。



なんという存在感。
まわりでは信者の方がマニ車を回しながら右回りに歩いておりました。



パシュバティナー
トリブバン国際空港のすぐ近く、バクマティ川に面したネパール最大のヒンドゥー寺院です。
ちなみにネパール人の80%はヒンドゥーだとタクシーのおじさんが言ってました。
ヒンドゥーはネパールの元国教（2006年の民主化運動の際に國教ではなくなった）。

バクマティ川はガンガへと注ぐ支流であるため、ここで火葬する=聖河ガンガへと帰る、と考えられています。
そのためバクマティ川の脇には火葬場があり常に煙が立ち上っています。

慈悲ながら信者以外は寺院には入れません。
というか火葬場にすら近づく事は出来ません。
500ルピーの入場料を払って行けるのは、火葬場の対岸までです。



基本的にインドのバラナシと同じです。
ムンバイやコロムボなど他の都市では火葬場が河川敷にあります。

たに、ハフノンリ火葬場は廻形地帯で9回までは廻形火葬です。
もちろん対岸からになってしまいますが・・・

僕が行った時も火葬をしていました。



バシュバティナートは『God of all animal』の意味だそうです。
ヒンドゥー寺院に入る時は靴を脱ぎ、革製品も外さなければなりません。
これは革=動物だからです。
そういえばインド以降そんな経験が増えた気がします。
ただ、動物が不浄だから外すのかそれとも神聖だから外すのかがどっちだったか忘れてしました。
聞いたらちゃんとメモしないとダメですね、あはは。

ほかにもヒンドゥーについていろいろ教えてもらったのですがここに書くと長くなるので
諒めます、笑
忘れてしまっただけ・・・なんてこたあ決してない、うん

でも信仰の違いってのはいろんなところに影響を及ぼすのではないかと思いました。
だからこそ知っておくのも重要だよなー、と思ったりもしました。

そんなネパール最終日でした。

次からブログは中国編です！

カテゴリ: [ネパール](#)

post by 鈴木和博 | 日時: 2011.07.24 | [パーマリンク](#) | [コメント\(2\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

in⇒out > 2011年07月 アーカイブ

11.07.20

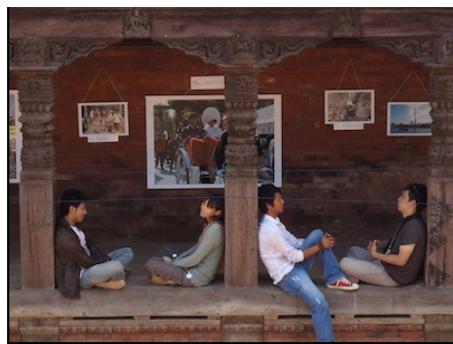
たくさんありがとうございます

[Tweet](#)

[Check](#)









7/8～10
ついに写真展スタートです。

日本からちょっとずつ準備してきたものが形になりました。
たくさんの人の力が合わさって開催できました。
みんなに入通りの多い場所で、たくさんの人を見てもらって、その時はあまり実感できなかったけど本当にすごい事なんだなーと今更ながら感じています。

BJLIの先生、生徒のみなさん
何から何まで本当にありがとうございました。
準備段階だけでなく写真展中もずっと僕たちに付いていてくれて、とても心強かったです。
会場幾の交渉やポスターの掲示場所など、僕たちの知らない所でも動いていただいている事が本当に嬉しかったです。

そして写真展を通してBJLIの人と、バクタブルの人と繋がれて幸せです。
また再会できる日を楽しみにしています！

谷本先輩・穂積先輩・梅先輩・矢野先輩
いろいろとアドバイスありがとうございました。
卒業制作で忙しい時期にたくさん質問してしまって迷惑おかけしました。
BJLIのみなさんはしっかり先輩達の事を覚えてましたよ！
今回スムーズに進める事ができたのも先輩達のおかげです。
ありがとうございました！

大木さん、田辺さん
無事に写真展ができました。
ネバールは想像していたより何倍も素敵な所でした。ネバールを選んだのは正解だったと言います！
みんなで準備したり撮影に行ったり、楽しかったです。
少しでも2人の期待に添える写真展になっていたらいいなーと思います。

丹下さん
バクタブル班の引擎ありがとうございました。
一晩の時間と空間を共有できて楽しかったです！
バクタブルでの思い出は持ちきれないほどたくさんありますよね！
日本で会えるのを楽しみにしています！

他にも名前を出してお礼を言いたい人はたくさんいます。
それだけ多くの人に出会い関わられたことが本当に幸せです。

芳名帳にもたくさんの方のコメントをいただきました。
ネバール語・英語・日本語・・・たとえ僕には読む事ができない言語で書いてあったとしても、良い事が書いてなかったとしても、何かを感じ残してくれるという事がこんなにも嬉しいものだという事を知る事ができました。

好きです、ネバール
またいつか、必ず来ます

ダンニヤバード
本当にありがとうございます

カテゴリ: [ネバール](#)
post by 鈴木 和博 | 日時: 2011.07.20 | [パーマリンク](#) | [コメント\(6\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

in@out > 2011年07月 アーカイブ

ネバール写真展～準備～

[Tweet](#)

[Check](#)

ブログはいよいよ力図目、ネバール編に突入です。
ネバールではバクタブル班とボカラ班に分かれて写真展を開催しました。

僕はバクタブル班だったのでそちらの様子をお送りします！

カトマンズから東に12kmのところにバクタブルの街はあります。
赤レンガが印象的な街で中心部は文化遺産となっています。

今回はそんな文化遺産のど真ん中！
ダルバール広場で写真展を開催しました！！



何回も足を運んだBJLI (Bhaktapur Japanese Language Institute)
スタッフのみなさんも学生のみんなも本当にいい人ばかり！



ゲストハウスで展示の準備



作業をしている時にゲストハウスのお姉さんが部屋に入って来たんですが全くノーリアクションでした。
自分のゲストハウスでこんな作業してたら怒るのが普通だと思うのですが・・・なんて言大なんでしょう！
ステキですShiva Guest House！！

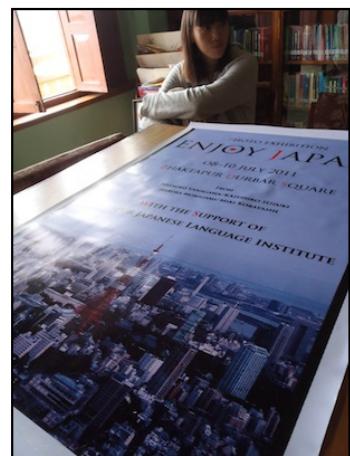




折り紙で鶴や手裏剣、花を作りました。
僕は不器用なので作りませんでしたけど・・・



A3ノビに引き延ばした雪の写真を持つ森上さん



急遽ポスターを増刷する事に。
小林さんが新たに2種類のポスターを作ってくれました！



新聞社で働いている先生のお力添えで新聞にも広告が載りました！
ありがとうございます！

ちなみに、写真展終了後の新聞にも写真展の様子が載りました！！



朝も昼も夜も毎日食べに行ったShiva Guest Houseのご飯
写真はsimple breakfastです。
とってもおいしい！
バクタブルを訪ねたらぜひ食事に行ってみてください。



ゲストハウスにポスターを貼ってもらいました！
貼ってくれているのはゲストハウスのコックでありBJLIの学生さんでもあるアニル君です！



なんとも言えない存在感ですね～
不思議であります
でも宣伝効果はきっとあったはず！！



いよいよ写真展のスタートです。

カテゴリ: [ネパール](#)

post by 鈴木 和博 | 日時: 2011.07.20 | [ハーマリンク](#) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

in@out > 2011年07月 アーカイブ

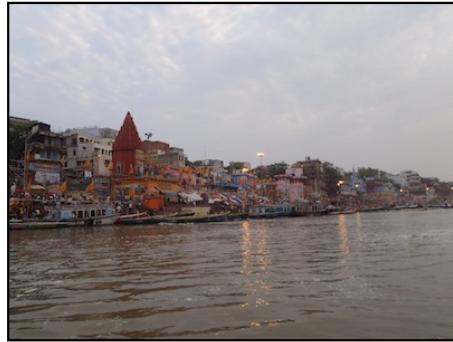
11.07.19

聖と俗の渦巻く街

[Tweet](#)

[Check](#)







聖地バラナシ
言わざと知れたヒンドゥーの聖地

ガートでは人が洗濯をしたり垂れ流したり
人だけでなく牛や犬も沐浴したり
頭の中にあったバラナシがそのままあった

ガンガーは決してきれいではないけれど
そんな事はどうでもよくて
ただただ生物の営みを受け止めていた

火葬場では服の色の意味や火葬の流れやらをいろいろと説明をしてもらって
英語だったけど一応なるほどなど納得できる程度の理解はしたはずなのだが
それもうほとんど忘れてしまった

ただ覚えているのは、お決まりのように斎代を請求された事くらい

別にいいのだけどね
お金の話になるときなり表情変えすぎだと思うのだよ
聖なるものにはお金がつき物なようです
そういう生き生き感じ、人間らしくてとてもいいと思います

バラナシには日本語で話しかけてくる人が結構いて
騙されないように警戒するものの、結局いい人だっていうオチが多くて
自己嫌悪がハンパなかったです

あとバラナシはインドの他の所よりも動物の排泄物がひどかったです（人も含め）
何回牛の糞の犠牲になった事か

ガンガーを眺め、人波に流され、停電と戻る
そんな日々でした

でもこれだけは言っておきます

バラナシ良いとこ一度はおいで！

カテゴリ: インド

post by 鈴木 和博 | 日時: 2011.07.19 | [パーマリンク](#) | [コメント\(6\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

in⇒out > 2011年07月 アーカイブ

一人で見る夕日

[Tweet](#)

[Check](#)

こんにちは。
ブログ更新遅くなっています。

現在中国、九寨溝に来ています。
バビュンとブログもワープしたい所ですが、インド・ネパールとたくさんの人に助けられているのでしっかりと書き留めていきたいと思います。

ブログはウダイブルの続きになります。

少しウダイブルの中心地を離れて遠出してみました。



と、いきなり道路で車が燃えておりました。
インド人も興味津々です。
僕も気になりましたがFW中ですので危険回遊ってことで遠くから眺めるにとどめておきました。



Ekingji Temple
ウダイプルの北 22 kmにあるシヴァ神の寺院。

とても静かな所にあります。
あまり観光客が足を運ぶ所ではないようです。
ゆったりとした空気が流れていました。



Haldighati
ウダイプルから 40 km離れた場所にある博物館です。
歴代のマハーラーナに関する展示があります。

インドに限らずですが外国人は入場料が地元の人の何倍もします。
カメラ持ち込み料とかもなかなか高いです。

ここでは入る時にどこの国の人か聞かれました。
ここも外国の観光客が来る事は少ない場所のようです。





Nathdwaraの街

ウダイブルから 48 km の場所にある街です。

クリシュナ寺院が有名な街らしいです。

なにやら結婚なものを作っていたので少し見させてもらいました。

ウダイブルからこの街に来るには山を越えなければなりません。

正直なんとなく流れに身を任せて来たって感じですので、よっぽどの物好きじゃないとこんなところまで来ないと思います。

でも日本では見る事が出来ない風景が見れるので、お金はかかりますがドライブも悪くないなーと思いました。



インドではいろんな動物と出会う事が出来ます。



ピチョーラ湖に浮かぶ島の宮殿



サンセットポイントからはウダイブルの街を一望できます。





ウダイブルに来たらぜひサンセットポイントに行ってみてください。
すてきな景色があなたを待っています。

カテゴリ: インド

post by 鈴木 和博 | 日時: 2011.07.19 | ハーマリンク | コメント(0) | トラックバック(0)

in@out > 2011年07月 アーカイブ

11.07.03

たとえ夢でも、理想でも

[Tweet](#)

[Check](#)

こんにちは、鈴木です。
ウダイブルのブログをもう一つあげたいのですが、先にこっちをUPします。
順番が前後してすいません。

デリーにはガンディーに関連する場所がいくつかあります。

今回はその中のガンディー・スミリティ博物館に行ってきました。

歴史博物館は、誇張や思想説教的な力も持っているので全てをそのまま呑み込む事がいいとは思いません。
でも、考えさせられます。
やっぱりここでも受け止め方はあなた次第です。

でも、デリーに行った際はぜひ足を運んでみてください。



ガンディーがインドで民族運動を始めるきっかけは南アフリカから始まります。

イギリスで法学の勉強をした後、南アフリカ（当時イギリス領）に渡り弁護士の仕事を始めました。
ところがそこで見えたものは白人優位の人種差別政策。
同じイギリスの植民地であったインドからも多くのが南アフリカに送られており、ガンディーは南アフリカで産生されているインド系移民の地位向上に奔走するようになります。

インドに帰国したガンディーを待ち受けていたのは第1次世界大戦。
イギリスはインドに対して『戦争に協力すれば戦後の自治権を約束する』という条件を出します。
しかし、結果的にインドの自治権はあまり拡大されずに終わってしまい、むしろローラット法により締め付けは厳しくなってしまいました。

その後たびたび投獄されながらイギリス製品の不買運動や塩の行進などの不順従運動を行います。





ガンディー博物館の敷地内には、彼がデリー滞在中に住んでいたビルラー財团の屋敷があります。
その裏庭。



1948年1月30日
ガンディーはビルラー邸の裏庭、この石碑の場所で殺されました。
ガンディーはヒンドゥーとイスラムの融和を掲げていましたがそれは叶わず、

1947年に
ヒンドゥー多数地帯→インド連邦
イスラム多数地帯→東西パキスタン

として分離独立する事になりました。

彼が殺されたのはそんな出来事の1年後だったわけです。
殺したのはヒンドゥー原理主義の青年。
簡単に言えば昧方です。

中立でいることは共感されるのと同じか、もしかしたらそれ以上に反感を買うものなのかも知れません。
平和のシンボルとして知られている人の中には、昧方に殺された人が數多くいます。

ガンディーの志は、確かに夢見がちで非現実的だったかも知れません。
誰もが幸せで丸く収まって平和な世界なんて、きっと実現はできないでしょう。

でも、眞では無理とわかっていても
それでも私は、無理かもしれない事を実現させようとしている人の方が好きです。
そう思う私もきっとバカなのでしょう。それでいいのだと思います。



World Peace Gong

この鐘の脇に刻まれている言葉は

「I will not like to live in this world if it is not to be one!」

カテゴリ: [インド](#)

post by 鈴木 和博 | 日時: 2011.07.03 | [ホームページリンク](#) | [コメント\(2\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

Copyright 2011 All rights reserved NIPPON PHOTOGRAPHY INSTITUTE

powered by OLYMPUS